



笠原社長

キミカ（東京都中央区、03・3548・1941）の笠原文書社長が博士号（薬学）を取得した。2011年からアルギン酸カルシウムの生理的機能性を共同研究してきた高崎健康福祉大学が授与した。笠原社長は「対外的な信頼向上にもつ

笠原社長 薬学博士号取得

ながり、医療分野参入など用途開発の弾みになる」と喜ぶ。
博士号を取得した論文は「アルギン酸カルシウムの食品成分としての機能性に関する研究」。アルギン酸カルシウムの肝脂肪や体脂肪の蓄積を抑える効果などを明らかにした。
同社はパンや麺など加工食品の食感を向上するアルギン酸を天然の海藻から抽出し、販売している。新型コロナ

キミカ、用途開発の弾みに

新型コロナウイルスの感染リスク抑制のため、20年3月に社員の出社率3割を目標にテレワークを導入。社員には空いた時間を自己啓発にあててほしいと促しており、社長自らの博士号取得もその一環。
感染拡大防止と経済活動の両立が評価され、このほど東京都の「TOKYOテレワークアワード」推進賞も受賞した。

（千葉）